

琵琶湖流域下水道東北部浄化センターの設計を通じての社会貢献

日本水工設計（株）



(財)滋賀県下水道公社HPより

東北部浄化センターの概要

処理場名	東北部浄化センター
処理方法	凝集剤添加活性汚泥循環変法 + 砂ろ過 凝集剤添加多段硝化脱窒法 + 砂ろ過 (+ オゾン + 生物活性炭池) () は将来計画
処理能力	全体計画 371,000m ³ /日 現有能力 105,500m ³ /日
全体計画における計画放流水質	BOD : 2.0mg/L T-N : 3.0mg/L T-P : 0.02mg/L

H19.3 現在

琵琶湖流域下水道東北部浄化センターは、滋賀県内で2番目に大きい流域下水処理場であり、当社は、昭和59年の基本設計から本浄化センターの設計に携わってきました。その間、施設設計以外にも耐震診断、経営計画、台帳整理、再構築計画などの業務を行い、コンサルタントとして滋賀県の事業執行を支援し、その役割を担ってきました。

本浄化センターの水処理方式は、第1系列において、「凝集剤添加活性汚泥循環変法 + 砂ろ過」として建設し、以降、「凝集剤添加多段硝化脱窒法 + 砂ろ過」を採用していますが、「凝集剤添加多段硝化脱窒法 + 砂ろ過」は、滋賀県が琵琶湖の水質保全のために取り組んでいる超高度処理の一環であり、滋賀県と日本下水道事業団の実証実験の結果を基に設計する最先端の施設です。本施設も平成17年度末に供用を開始し、良好な処理水質を保って順調に運転しています。また、平成19年度末からは焼却溶融炉が稼動するなど、長年我々が設計してきた施設は順次稼動し、処理場としての機能を拡大しています。

当浄化センターは、琵琶湖の環境基準達成に向けて期待されており、今後は既存の水処理施設をすべて「凝集剤添加多段硝化脱窒法」に更新する計画としています。

当社も、コンサルタントとしての従来の責務を果たすとともに、東北部浄化センターの設計を通じて日本一である琵琶湖の水質保全に貢献していく所存です。

お問い合わせは日本水工設計（株）へお願いします。